

A light green map of Fukui Prefecture serves as a background. Four yellow stars are placed on the map: two in the northern part and two in the southern part.

第3期中期計画

(2019年度～2024年度)

～福井の元気・持続可能性を支える大学へ～



公立大学法人

福井県立大学

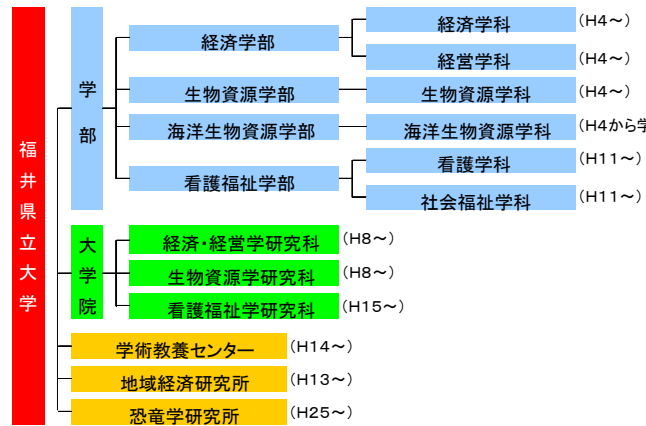
Fukui Prefectural University

目 次

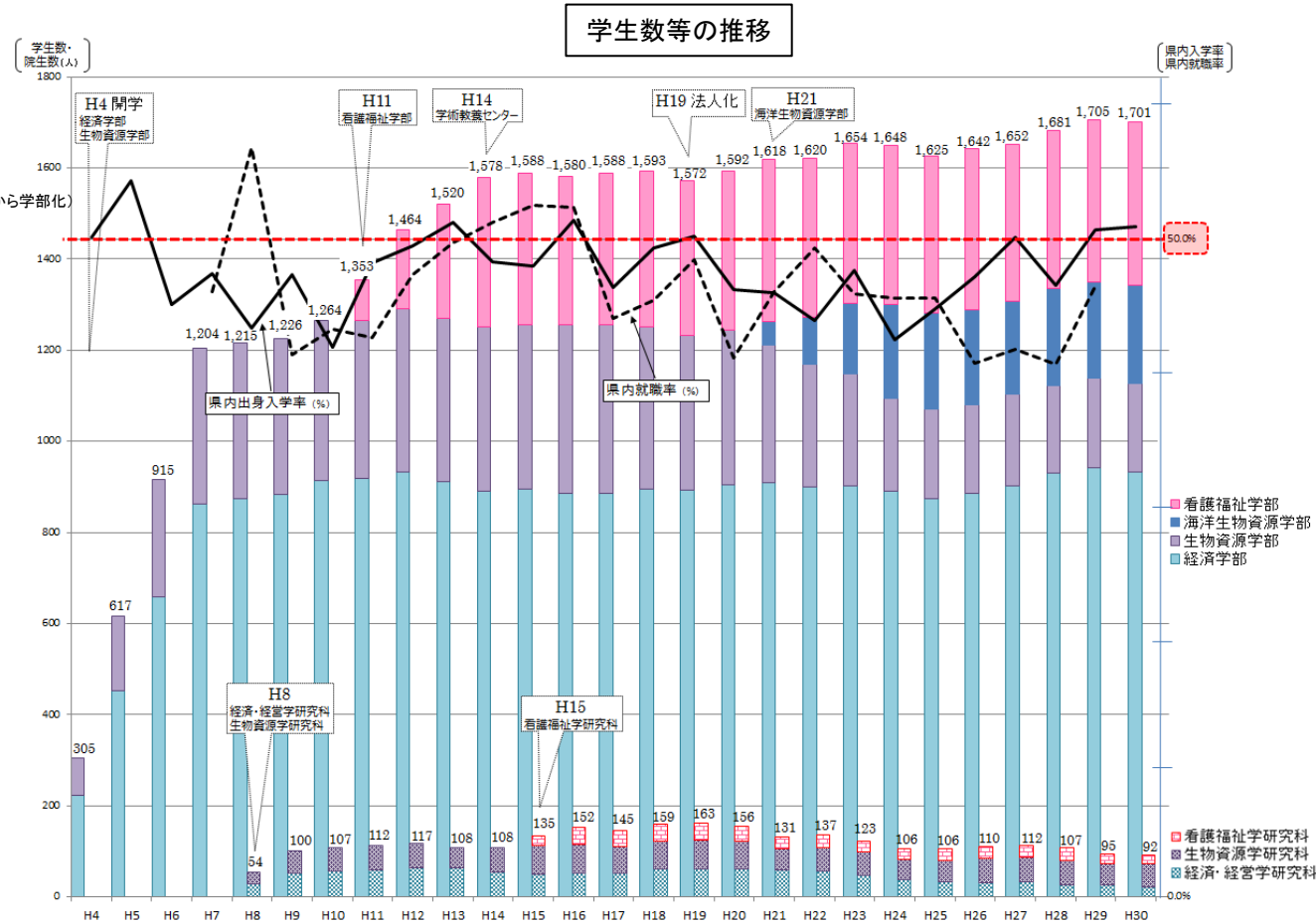
1. 本学のこれまでの教育研究活動
2. 第2期中期計画の総括
3. 本学を取り巻く環境の変化
4. 第3期中期計画の基本方針
5. 第3期中期計画の重点
6. 第3期中期計画の主な内容
7. 達成指標

1. 本学のこれまでの教育研究活動

- ・平成4年に開学、平成19年に公立大学法人化
- 現在、大学院3研究科7専攻、4学部6学科、1センター2研究所 体制へ



- ・修了生・卒業生は約9,000人
- ・県内入学者は50%を上回る状況
- ・就職率は全国平均を上回る90%台を常に維持
(県内企業への就職率は40%台半ば)



・オープン・ユニバーシティの推進 (H28～)

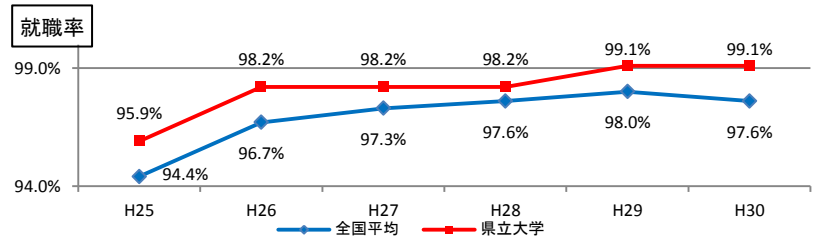
- ① 県民のにわ
 - ・学生食堂を県大レストランとして開放、桜や果樹を植樹しつづける場へ
- ② 県民の学び
 - ・社会人聴講生・科目等履修生の聴講料を大幅に引き下げ、受講生が増加
- ③ 県民・地域とのつながり
 - ・地域連携本部を発足、地域課題に対するフィールドワークを開始

2. 第2期中期計画の総括

計画を上回って達成した項目

(1) 全国平均を上回る就職率を維持

- ・ 1年次からキャリア教育を実施
- ・ 海外インターンシップ研修を実施



(2) 恐竜学研究所を開設

- ・ 国際シンポジウムを開催、国内外で共同研究を実施



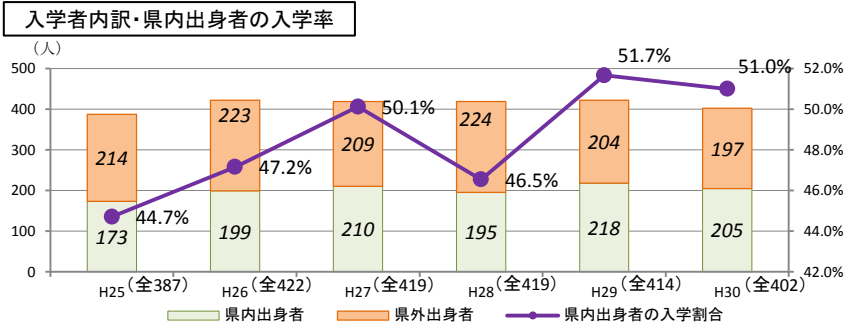
国際シンポジウム『恐竜の繁殖』(H28.6.24)



国内初の哺乳類骨格化石の発見を発表 (H28.6.25)

(3) 地元受入枠を拡大

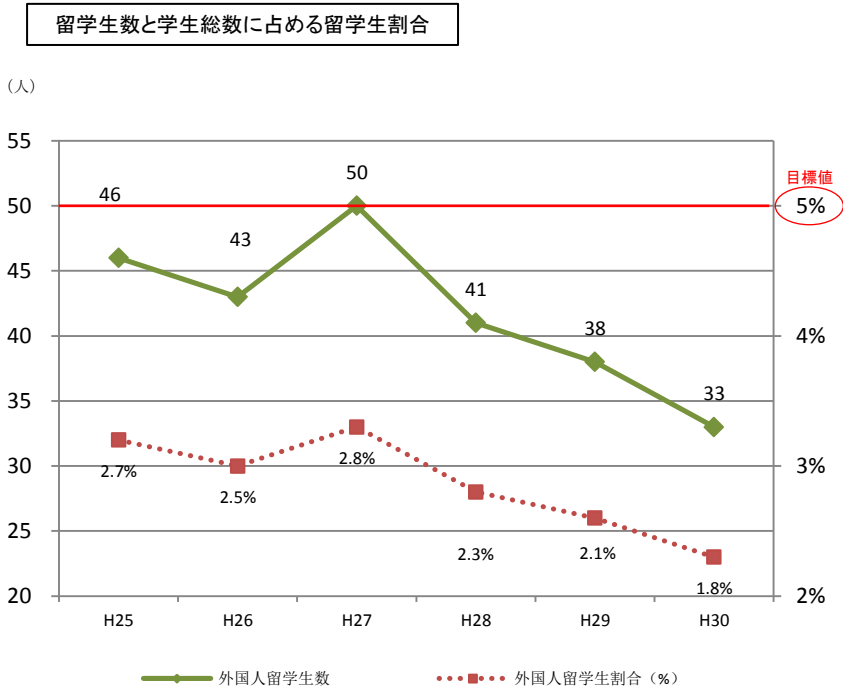
- ・ 推薦入試募集枠を全学で80人から101人へ増加(H29～)



計画を達成できなかった項目

(1) 外国人留学生数が減少

- ・ 目標値に未達

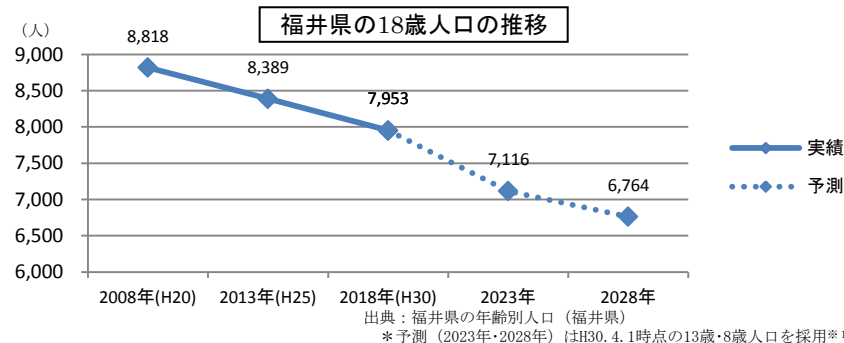


3. 本学を取り巻く環境の変化

(1) 人口減少による地域の活力低下

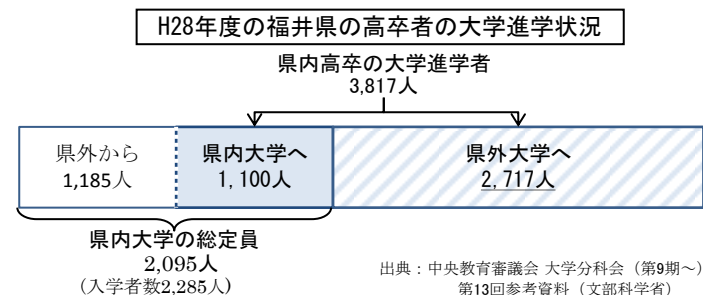
① 少子化の進行

- ・ 福井県の18歳人口 H20年：8,818人 ⇒ H30年：7,953人
(8,000人を割り込む状況)
- ・ 10年後の2028年には約6,800人と、さらに1,000人余り減少

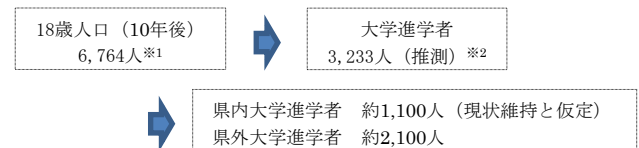


② 若者の県外流出

- ・ H29年3月の県内高校卒業者の大学への進学者は 2,717人
約7割が県外へ進学
- ・ 10年後（2028年）も、県内大学へ現在並みの約1,100人進学と
仮定しても、約2,100人が県外へ進学
- ・ 一方、県外進学者の県内Uターンは約3割
(7割が県外で就職)



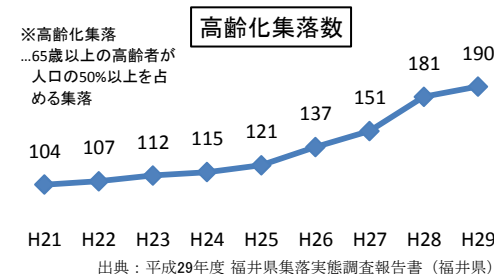
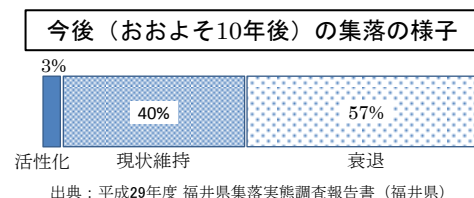
10年後の県内高校卒業者の進学予想



※2028年の18歳人口※1に大学進学率※2を乗じて独自推測で算出

③ 地域の活力低下

- ・ 県の実態調査では、約6割の集落が今後（10年後）衰退と回答
- ・ 住民は地域に愛着や誇りを持つものの、人口減少や高齢化に伴う地域の伝統行事や文化・産業等の維持が困難 ⇒ 地域の活力低下を懸念



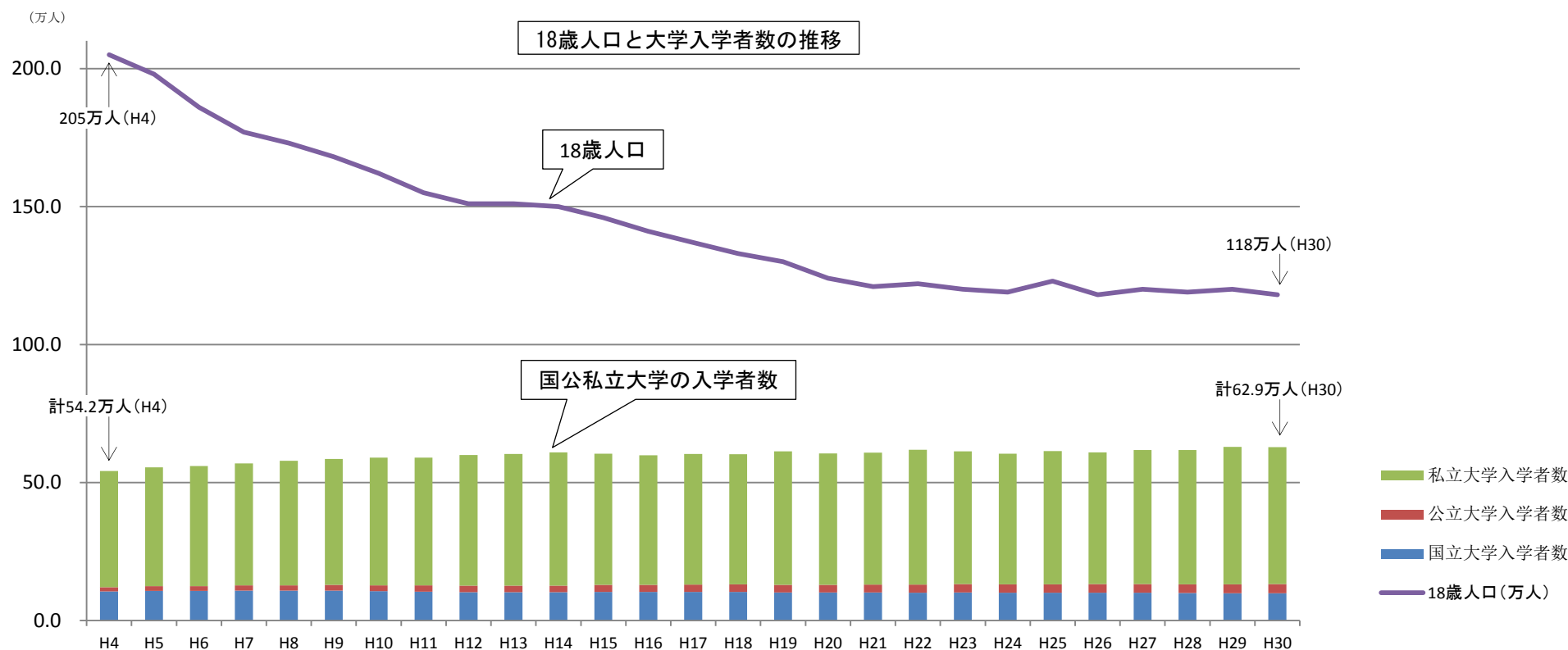
⇒地域に定着する人材育成と地域の活力の維持に対応しうる大学づくりが急務

3. 本学を取り巻く環境の変化

(2) 大学間競争の激化

- ・ 少子化が進行する中、大学数および入学者数は拡大

全国の国公立大学数	H4年（開学時）：523大学	⇒	H30年：782大学	（約1.5倍 ^(259大学) ↑ ）
うち公立大学数	41大学	⇒	93大学	（約2.3倍 ^(52大学) ↑ ）
全国の18歳人口	205万人	⇒	118万人	（約40% ^(87万人) ↓ ）
大学入学者数	54.2万人	⇒	62.9万人	（約16% ^(8.7万人) ↑ ）



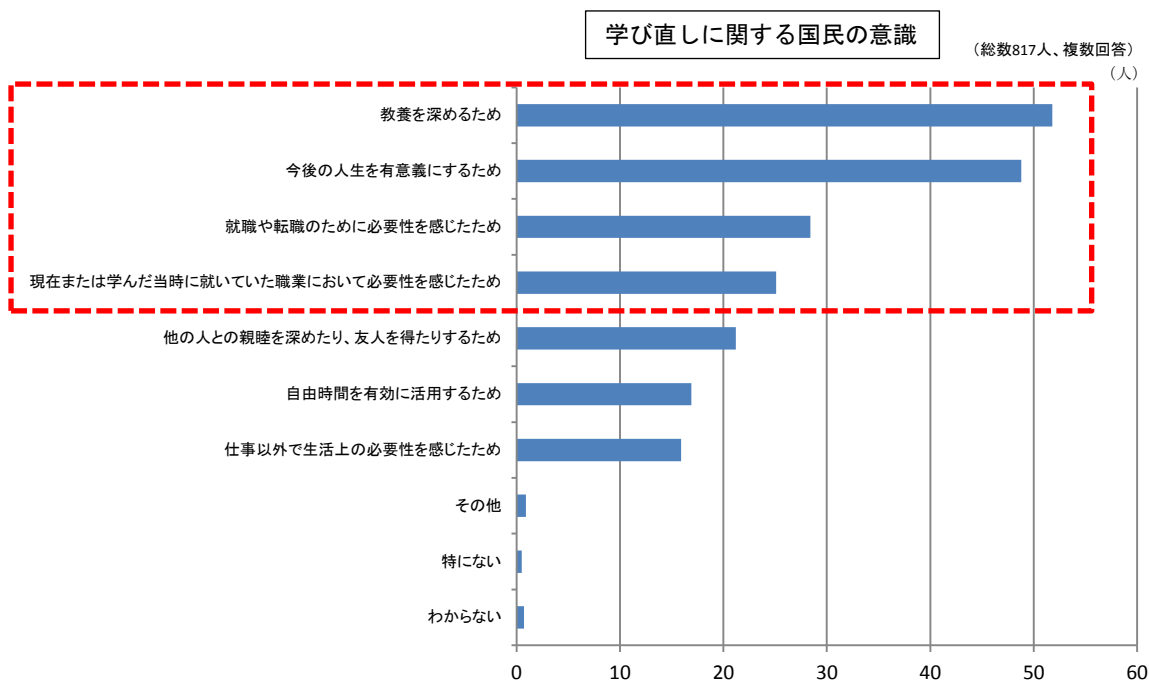
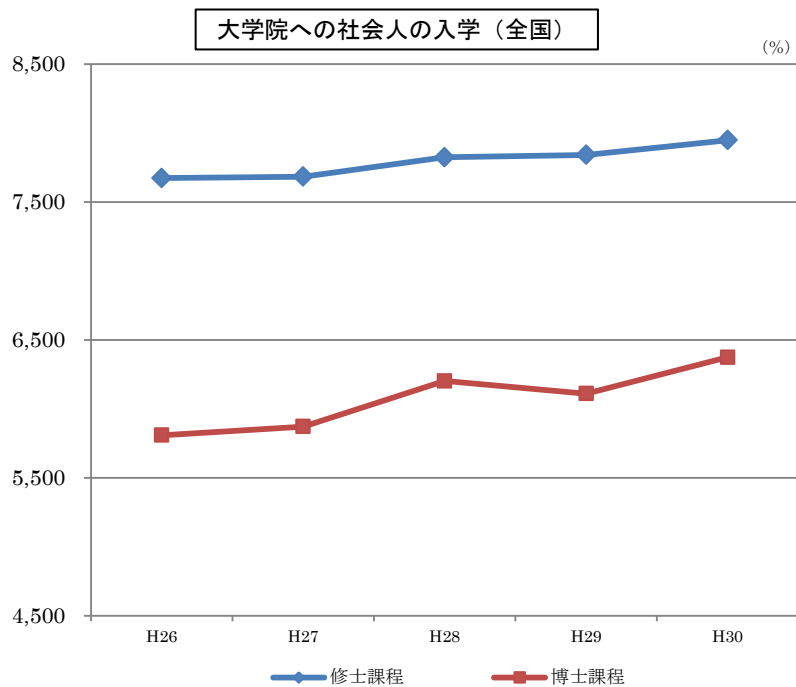
出典：大学数・大学入学者数は学校基本調査（文部科学省）
18歳人口は18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（文部科学省）

⇒大学はそれぞれの使命・特色を明確にし、ブランド化を進めることが必要

3. 本学を取り巻く環境の変化

(3) 人生100年時代

- ・ 平均寿命や健康寿命の延伸、各個人が生涯にわたり活躍することを前提とした社会へ変革
⇒ 大学院への社会人入学者も増加傾向
- ・ 従来の固定式3ステージ人生（教育→仕事→引退）からマルチステージ人生（仕事・教育・自分探しの旅など、各人のライフステージに応じた自由な選択）へシフト
⇒ 個人の生き方や働き方が大きく変わる可能性（意識の変化）

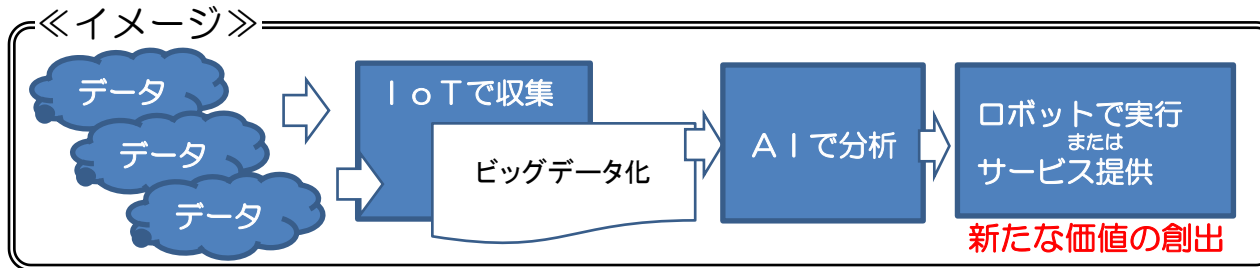


⇒若者から高齢者まで社会人の多様な学び直しニーズに対応した学びの受け皿づくりが必要

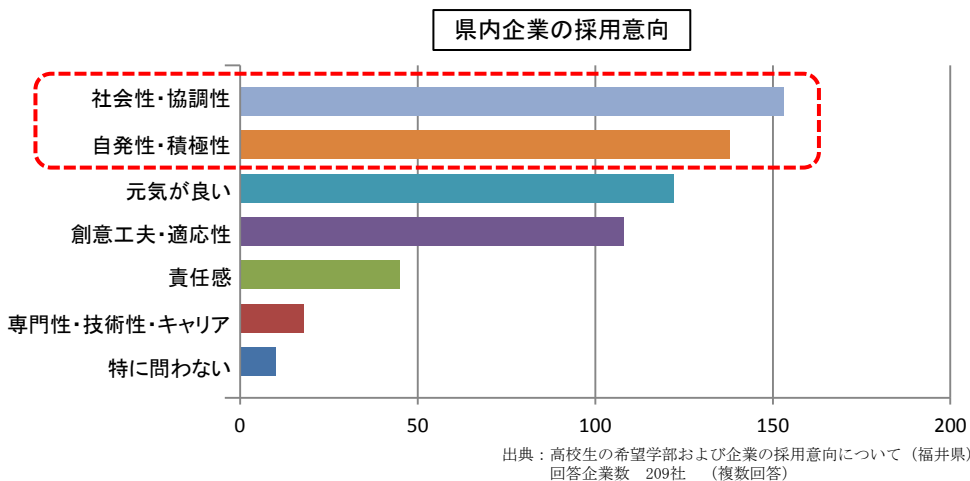
3. 本学を取り巻く社会環境の変化

(4) AI・IoTなど先端技術の進化

- ・ AIやIoTの進展により、非定型的な知的業務や複雑な手仕事業務においても将来的には代替
⇒働き方も大きく変化



- ・ 一方、県が実施した県内企業の採用意向調査では約7割の企業が「社会性・協調性」、「自発性・積極性」を重視



経済団体の提言

①求められる人材

- ◆ 定型業務の多くはAIやロボットに代替可能になるため、求められる人材像は大きく変わる。
- ◆ 自ら課題を見つけ、AIなどを活用してそれを解決できる人材が必要となる。
- ◆ 多様性を持った集団において、リーダーシップを発揮することも重要となる。

②教育・人材育成への期待

- ◆ 教育は、異質性を伸ばす方向に大きく転換し、失敗を恐れずに挑戦する習慣を身に付けさせるべき。
- ◆ 基礎的なリテラシー、文理分断からの脱却、トップ人材の育成等の観点から教育の在り方を見直すべき。

出典：Society 5.0 ーともに創造する未来ー（一般社団法人 日本経済団体連合会）

⇒ AI・IoTの進展に対応しながらも、創造力や行動力を備え、自ら課題を発見しその解決方法を提案・実行できる人材育成が重要

4. 第3期中期計画の基本方針

- ・ 今後の地域や大学を取り巻く環境変化に的確に対応
- ・ **県民に信頼され、地域に貢献する大学**として使命を果たす



《基本方針》

(1) 地場産業と地域の活性化を担う新たな人材育成

- ・ 福井県の資源や人材などの特色を活かした新たな学部・学科を開設、地域の持続性を担う人材を育成

(2) 多様な学生の確保と県民の学び・リカレント教育の支援

- ・ 社会人や外国人留学生など多様で意欲ある学生を受入れ、学びの環境を整備

(3) 『福井の元気や持続可能性を支える大学』としての機能強化

- ・ 地域・県民とのつながりを強化し全県キャンパス化、学術研究資源を活かした研究・地域貢献を推進

◆ 第3期中期計画の期間 2019年4月1日～2025年3月31日（6年間）

- ・ 中期計画期間の前半3年間で主な取組みを実現
- ・ 前半3年を経過する時点で進捗状況を評価・点検、必要に応じ計画内容を見直し

5. 第3期中期計画の重点

《基本方針1》

地場産業と地域の活性化を担う新たな人材育成

- (1) 広く「農」を学ぶ新学科
- (2) 水産増養殖を中心に学ぶ新学科
- (3) 次世代の地域リーダーを養成する新学部
- (4) 世界的な学術拠点となる古生物学関係の新学部
- (5) 大学院看護学専攻の博士後期課程

《基本方針2》

多様な学生の確保と県民の学び・リカレント教育の支援

- (1) 人物評価を重視した入試制度の改善
- (2) 県大での学びの魅力発信
- (3) 大学院教育の充実
- (4) 社会人・外国人留学生の受入れ拡大
- (5) 県民の学びの応援

《基本方針3》

『福井の元気や持続可能性を支える大学』としての機能強化

- (1) 地域・社会の要請に応える学びの質向上
- (2) 学外との連携による先端研究や地域研究の推進
- (3) 留学機会の増進・支援体制の強化
- (4) 地域連携本部の活動強化
- (5) 学生生活の支援
- (6) 高い就職率の維持

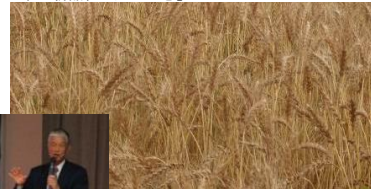
6. 第3期中期計画の主な内容

1 地場産業と地域の活性化を担う新たな人材育成

①広く「農」を学ぶ新学科（開設目標：第3期中期計画期間の早期）

- 農業生産技術から実践的経営、農業農村マネジメント、環境保全まで幅広く「農」を学ぶ新学科を開設
- 地域を元気にできる起業家精神を備えた人材を養成

早生新品種「ふくこむぎ」



創立25周年記念シンポジウム(H29.11.30)
「福井農業新時代を創る！」



ミニトマト新品種「越のザウルス」

②水産増養殖を中心に学ぶ新学科（開設目標：第3期中期計画の期間中）

- 新魚種の導入や養殖技術の開発、新市場開拓など水産増養殖を専門的に学ぶ新学科を開設
- 新たな地場産業創出・世界的な増養殖ニーズに応える人材を養成



IoTを活用した次代の養殖技術の実証実験

③次世代の地域リーダーを養成する新学部（開設目標：第3期中期計画の前半）

- 観光や産業振興、自治体運営など地域の課題解決手法を現場で学び、現場力、マネジメント力を備えた次世代の地域の担い手を養成する新学部を開設

④世界的な学術拠点となる古生物学関係の新学部（開設目標：第3期中期計画の期間中）

- 恐竜学研究所や大学院での教育研究実績を活かし、恐竜など古生物学を中心に、年縞など古気候学等も取り入れた新学部を開設

ゴビ砂漠での国際共同研究 ～ 恐竜化石発掘調査



提携先大学(タイ)等と共同研究で
新種恐竜化石発見(H28.1.15)

⑤大学院看護学専攻の博士後期課程（開設目標：第3期中期計画の期間中）

- 県内の大学等において高度な看護研究・教育を担う専門人材を養成する博士後期課程を開設



福井県年縞博物館

6. 第3期中期計画の主な内容

2 多様な学生の確保と県民の学び・リカレント教育の支援

①人物評価を重視した入試制度の改善

- チャレンジ精神や行動力など人物評価を重視する総合型選抜(AO入試)や一般選抜での面接などを実施

②県大での学びの魅力発信

- 大学の授業・実験の体験、出前講義など高大連携を強化、対象を中学生にも拡大
- 新たな学部・学科の開設に併せ、本学での学びの魅力を親世代にもアピール

③大学院教育の充実

- 社会ニーズに即した実践的な教育を充実するカリキュラム等の見直し

④社会人・外国人留学生の受入れ拡大

- 社会人向け短期集中型講座の看護福祉学研究科での新設、経済・経営学研究科での見直し
- 農の新学科に社会人の学士編入制度を導入、県内への就農・定住を自治体と連携して一体的に支援
- 日本語学校でのPR、授業料の減免などにより外国人留学生の受入れを拡大

⑤県民の学びの応援

- 科目等履修生・聴講生を増加、社会人の学び直しを応援
- 県民の優れた研究成果の普及や地域の政策課題に対応する特別講座を開催
- 地域公共政策に関する研究を地域政策に活用できるよう、自治体等と連携した講座を開催



高校生による大学訪問(H29.10.27)
看護福祉学部での教育体験



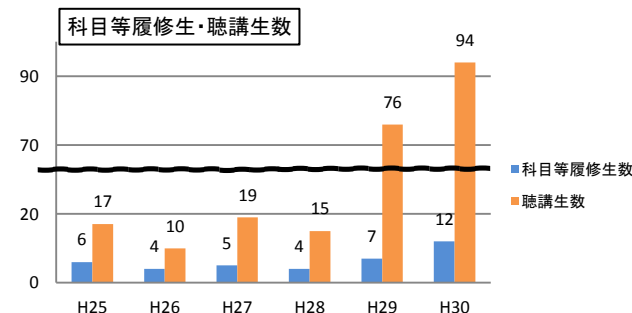
小浜キャンパスシンポジウム(H30.10.20)
「水産業の未来と増養殖の重要性」



福井プレレッジ(経済学部)(H30.8.9)
公共施設の再編をシミュレーションする体験授業



短期ビジネス講座(H28.10.29)
社会人を対象としたビジネススクール



6. 第3期中期計画の主な内容

3 『福井の元気や持続可能性を支える大学』としての機能強化

①地域・社会の要請に応える学びの質向上

- 公設試験場の研究者や実践農家など、地域で活躍している人材を教育に活用する「ふるさと特任講師」(仮称)を新設
- 現場実習やフィールドワーク、アクティブラーニングを拡大し、地域との関わりの中で自発性・協調性を養成
- 入学から就職までの学事データを一括して収集分析、教育や学生支援に反映

②学外との連携による先端研究や地域研究の推進

- 福井の独自性を自然環境、歴史文化など様々な視点から研究、「福井学」として推進
- 海外の大学等との国際的な共同研究や外部資金の積極活用による先端的研究を推進
- 農作物品種開発や増養殖技術の研究、地域活性化に資する経済分析など地域課題解決研究を強化

③留学機会の増進・支援体制の強化

- 新たな提携先大学の開拓や留学・国際交流の支援など、本学の国際化を推進する総合窓口を整備
- 短期留学経費助成の拡充、異文化理解教育の充実などにより、学生の海外留学を拡大

④地域連携本部の活動強化

- 地域包括ケア推進のための地域での実証研究など、地域課題解決に資する活動を強化
- 地域とのネットワークを拡大するため、各分野における自治体・団体等との交流を強化

⑤学生生活の支援

- 国の授業料無償化に併せた独自支援策を検討、障がいのある学生等への相談体制を充実
- 全国レベルで活躍するクラブ・サークル活動へ支援強化、同窓生ネットワークを拡大

⑥高い就職率の維持

- 企業経営者による講義や本学OB・OGを活用した就職相談などにより学生の就職を支援
- 県内中小企業に関する情報の収集・提供や外国人留学生の県内定着に向けた支援を強化



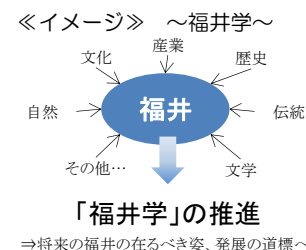
企業経営者による講義
「福井企業と地域社会」経済学部(H28.12.2)
～セーレンの経営戦略と地域社会への貢献～



新たな医薬品開発に繋がるペプチド合成
における生成メカニズム解明の研究



フィンドレー大学(米)の学生・教員との交流
県大茶道部による野点(のだて)おもてなし
(H29.6.15)



協定を結ぶ小浜市が振興するコウギクに
血糖値上昇を抑制する作用があることを
発表(H31.1.31)



男子ソフトボール部(北信越リーグ連覇)



アメリカンフットボール部
(北陸リーグ4連覇)

6. 第3期中期計画の主な内容

その他（情報発信・業務運営）

①戦略的な広報と県大ブランドの発信

- 本学の新たな教育・研究の取り組みや研究成果を発信、スポーツ・文化芸術など学生自主活動もアピール
- 全学的にSNSを活用した情報発信を推進



秋篠宮同妃両殿下の県大ご視察（H30.10.9）

②業務実行機能の向上

- 教職員が一体となった組織づくり、プロジェクトごとの責任者を明確にした運営を実施

③優れた教職員の確保・育成方策の充実

- 若手からベテラン教員までバランスのとれた体制を構築
- 地域連携や研究、国際交流などの分野で専門実務者を確保、職員のプロパー化を推進
- 教職員の超過勤務縮減など働き方の見直し、点検の実施



福井県立大学25周年記念シンポジウム（H29.10.14）
「十人十色の働き方で元気福井を創生しよう！」

④経費の節減・自己財源の増加

- 省エネ性能の高い設備を導入、日常業務の見直しにより運営を合理化・簡素化
- 競争的研究資金・助成金の獲得を強化、知的財産を活用



永平寺キャンパス



小浜キャンパス



生物資源開発研究センター



海洋生物資源臨海研究センター

⑤適切な施設の整備

- 施設の長寿命化計画を策定、適切かつ計画的な維持管理・修繕を実施

7. 達成指標

(2024年度末までに達成すべき指標)

区分	指標内容	目標値	備考 (第2期中期計画期間平均)
教 育	県内出身者の入学割合	50%以上	48. 6%
	県内への就職割合	50%以上	42. 9%
	社会人入学者数	30人以上	13. 8人
	外国人留学生割合	3%以上	2. 4%
研 究	教員1人当たり著書・論文・特許出願件数	著書 0. 5件以上 論文・特許 1. 5件以上	著書 0. 4件 論文・特許 1. 3件
	外部研究資金活用状況	申請率 80% 採択率 30%	申請率 46% 採択率 27%
地域貢献	県内自治体・企業等との共同研究・受託研究件数	30件以上	15. 5件
	委員等就任件数	450件以上	431件
	公開講座数・受講者数	70講座以上 3, 500人以上	50講座 2, 527人
国際化	学生の海外留学割合	20%以上	14%
情報発信	メディア掲載・放送件数	350件以上	325件
業務運営	自己収入比率※ ※自己収入比率＝(授業料等収入、受託研究等収入、雑収入)÷収入(施設整備費を除く)	35%以上	34. 5%



～福井の元気・持続可能性を支える大学へ～



公立大学法人

福井県立大学

Fukui Prefectural University